

令和5年度

屋間小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本的な知識・技能の習得を図り、様々な活動を通して児童の思考力・判断力・表現力を伸ばす指導の工夫
- ②学習の個別最適化を意識することにより、自らの目標を持ち主体的に取り組むことができる学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員
- 委員 教務主任
研修主任
- 低学年推進員
中学年推進員
高学年推進員

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

中間期と年度末に担任が取り組み状況について報告し、学力向上検討委員会において検討し、見直しを図る。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習課題に対し、やり遂げようとする意欲が高まり、基礎基本の学習に進んで取り組んでいる。 ●基礎・基本の計算や漢字の読み書き、語句の意味や使い方の理解など、基礎基本の定着が十分でない児童があり、個人差がある。	自分の学習の到達度に応じた課題に積極的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	①チャレンジタイム(朝の学習)の時間に、プリント学習や GIGA 端末を使ったドリル学習等で基礎・基本の定着を図り、単元テスト到達率80%以上を目指す。 ②ノートや GIGA 端末等を活用し、自分の学習を振り返る時間を設定することで、次時の学習につなげる。	①既習内容を、端末ドリルやプリント等で復習することで基礎的な内容の理解につながった。 ②振り返りの時間を設定することで、学びを振り返り、次時の課題を設定する児童の姿が見られつつある。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対する自分の考えを伝えようとする児童が増えている。 ●文章や図などから情報を整理・分析する力が十分でない。 ●目的や意図に応じた文章を書くことが苦手な児童が多い。	情報を正しく読み取り、それをもとに、自分の考えを深め、筋道を立てて伝えることができる。 文章の構成を意識し、自分の考えを目的や意図に応じて書き、まとめることができる。	①学習ツール(ロイノート)をもとに思考ツールを中心とした学習を進め、ペア学習やグループ学習等、協働的に学ぶ場面を取り入れ、情報活用能力を高める。 ②文章を読む機会を設け、文章の構成や主述関係や指示語などに着目して文章を読み取る力を伸ばし、書く力につなげる。	①思考ツールで考えを細分化したり、協働的に学んだりしたことで、情報を様々な視点から考えようとする児童が増えた。 ②書く機会を増やすことで、自分の考えを表現することができるようになってきた。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題や決められた課題には、進んで取り組むことができる。 ●自分の学習状況に合った課題を設定し、取り組むことが苦手である。	家庭学習の方法や内容について、自分自身が目標を設定し、それを意識しながら、達成することができる。	①東みよし町「学びの手引き」を参考にしたり、児童の学習方法を共有したりし、学習内容を選択できるようにする。 ②「家庭学習チェック表」を活用し、自分であてを決めて取り組めるようにする。	①学習方法の紹介が取り組みへの参考となり、目的を持って学習に取り組む児童が増えた。 ②チェック表の記入が、自分の学習を振り返る機会となった。		

令和5年度 学力向上ロードマップ

